海外レポート	**インド　チェンナイ**

「インド人実業家と湾岸諸国のつながり」

田中　啓介

＜ドバイでは印僑が活躍＞

ビジネスの世界では、古くから世界中の商人が海を渡り、経済的成功を収めてきました。商人といえば、特にユダヤ人や華僑・印僑が有名ですが、地域としては、ユダヤ人が欧米諸国で特に存在感を持ち、華僑が東南アジアで成功している傾向にあります。一方で、インド商人である「印僑」が主戦場としているのはドバイを拠点とした中近東・アフリカ諸国です。

ドバイは UAE（アラブ首長国連邦）の首長国の１つですが、歴史的に中近東とインド亜大陸をつなぐ貿易中継地として、特に金や繊維などの取引において重要な役割を担ってきました。現在のドバイの通貨はディルハム（Dh：Dilham）ですが、1947 年にインドが独立してからもしばらくの間は、ドバイでインドルピーが使われ、また、その後も「湾岸ルピー」としてインドルピーを代替する通貨が運用されたほど、経済圏におけるインドとの伝統的な強い繋がりを持っています。

＜中東帰りの実業家が活躍＞

昨今においてもインド国内の人材斡旋事業者を通じた中東湾岸諸国への出稼ぎ労働者や、ドバイを中心とした湾岸諸国で事業を立ち上げる実業家が多数います。ケララで最も有名な富豪と言われる Yusuff Ali（ユスフ・アリ）氏もアブダビに本社を構える「EMKE Lulu Group」のマネージングダイレクターを務め、1973 年にアブダビに渡り、叔父の小さな食料品店を手伝いはじめたことをきっかけに、その後、中東湾岸諸国で大成功を収めました。同社は、ハイパーマーケット「Lulu」を展開しており、最近、バンガロールに逆輸入の形でオープンさせ、インド国内で注目を集めています。私も早速行ってみましたが、食材のバリエーション・品質・価格どれをとっても圧倒的。今年３月にはタミル・ナド州政府と MOU（覚書）を締結し、3,500 億ルピー（約 5,900 億円）を投じ、チェンナイにも展開していくと発表しています。

インドの国内小売業は、外資規制による国内産業の保護を受けており、いまだにウォルマートやセブン-イレブンも小売業としてインド進出を果たせていません。一方で、こうした海外で成功したインド人実業家がインドに凱旋帰国し、国内市場を活性化していくケースが増えています。

【ハイパーマーケット「Lulu」の店内の様子】